



セジロハゼとミミズハゼ属魚類 7 種の北海道からの記録

金井聖弥¹・小野波龍²・及川 輝³・田中克海⁴・
高野光喜⁵・北田将大⁶・武藤望生⁷・本村浩之¹

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
KS: kseyia1228@gmail.com (corresponding author)
HM: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp
² (江別市)
³ (北上市)
⁴ (三豊市)
⁵ (大和村)
⁶ 株式会社エコテック（札幌市）
⁷ 北里大学海洋生命科学部（相模原市）
muto.nozomu@kitasato-u.ac.jp

Received 04 November 2025
Revised 15 November 2025
Accepted 16 November 2025
Published 17 November 2025
DOI 10.34583/ichthy.61.0_15

Seiya Kanai, Hazuki Ono, Hikaru Oikawa, Katsumi Tanaka, Mitsuki Takano, Shota Kitada, Nozomu Muto and Hiroyuki Motomura. 2025. Records of *Clariger cosmulus* and seven species of *Luciogobius* from Hokkaido, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 61: 15–23.

Abstract

Clariger cosmulus (Gobiidae) and seven species of *Luciogobius* (Gobiidae), viz., *Luciogobius elongatus*, *L. grandis*, *L. martellii*, *L. parvulus*, *L. platycephalus*, *L. yubai*, and *Luciogobius* sp. 13 sensu Shibukawa et al. (2019), were collected from Hokkaido, Japan. With the exception of *L. martellii*, all species represent the first records from Hokkaido and the northernmost records. *Clariger papillosus*, *L. guttatus*, and *L. martellii* have previously been recorded from Hokkaido. Taken together with *C. papillosus* and *L. guttatus*, there are now two and eight species of *Clariger* and *Luciogobius*, respectively, known to occur in Hokkaido.

セジロハゼ属 *Clariger* Jordan and Snyder, 1901 およびミミズハゼ属 *Luciogobius* Gill, 1859 は、その多くが河川および沿岸域に堆積した基質の間隙に生息する小型魚類で（渋川ほか, 2019, 2020）、近縁なシロクラハゼ属 *Astrabe* Jordan and Snyder, 1901、コマハゼ属 *Inu* Snyder, 1909 とともにミミズハゼ属群（渋川ほか, 2020）を形成する。北海道においてはこれまでミミズハゼ属のミミズハゼ *Luciogobius guttatus* Gill, 1859、イソミミズハゼ *Luciogobius martellii* Di Caporiacco, 1948、およびセジロハゼ属のヒゲセ

ジロハゼ *Clariger papillosus* Ebina, 1935 の 3 種が報告されていた（例えば、小谷・今村, 2009, 明仁ほか, 2013）。

2020–2023 年に北海道沿岸の堆積物中に潜行する魚類を対象とした手網などによる採集調査を著者らが実施した結果、セジロハゼ *Clariger cosmurus* Jordan and Snyder, 1901、イソミミズハゼ、ダイダイイソミミズハゼ *Luciogobius yubai* Ikeda, Tamada and Hirashima, 2019、オオミミズハゼ *Luciogobius grandis* Arai, 1970、ヤリミミズハゼ *Luciogobius platycephalus* Shiogaki and Dotsu, 1976、ナガミミズハゼ *Luciogobius elongatus* Regan, 1905、ナンセンハゼ *Luciogobius parvulus* (Snyder, 1909)、およびホソミミズハゼ *Luciogobius* sp. 13 sensu Shibukawa et al. (2019) の生息が明らかとなった。このうちイソミミズハゼを除く 7 種は北海道からの初めての記録および分布北限記録を更新するものであり、イソミミズハゼは北海道から標本に基づく確かな記録であるためここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は主に Koreeda et al. (2023) にしたがいが、背鰭基部後端から下尾骨後端を通る垂線までの距離（水平長）は渋川ほか（2019）にしたがった。腹鰭後端–肛門間の距離（P₂A: distance between posterior end of pelvic fin and anterior margin of anus）は P₂A 長、肛門–臀鰭基底間の距離（AAA: distance between anus and anal-fin origin）は AAA 長とした。標準体長（standard length）は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、体長に対する百分率で示した。同定根拠とした計数・計測形質は尾鰭分節軟条数、脊椎骨数、背鰭前長、P₂A 長、背鰭基部後端から下尾骨後端を通る垂線までの距離、背鰭基底長を除き全個体で計数・計測を行い（Table 1）、尾鰭分節軟条数は正確な計数が可能であったミミズハゼ属群の全個体、脊椎骨数はナガミミズハゼ 3 個体（KAUM-I. 187610, KAUM-I. 187611, KAUM-I. 187612）のみの軟 X 線写真を用いて計数した。背鰭前長、P₂A 長はヤリミミズハゼの全個体、背鰭基部後端から下尾骨後端を通る垂線まで

Table 1. Counts and measurements of seven species of *Luciogobius* from Hokkaido.

	<i>L. martellii</i> <i>n</i> = 2	<i>L. yubai</i> <i>n</i> = 1	<i>L. grandis</i> <i>n</i> = 8	<i>L. platycephalus</i> <i>n</i> = 4	<i>L. elongatus</i> <i>n</i> = 13	<i>L. parvulus</i> <i>n</i> = 4	<i>L. sp. 13</i> <i>n</i> = 5
Standard length (SL; mm)	63.3–64.8	47	61.4–112.3	18.7–60.3	21.1–32.3	21.1–41.8	18.5–36.7
Counts							
Dorsal-fin rays*	13	9	17	11	6–8	10–11	10–11
Anal-fin rays*	14	11	16	13–14	8–10	13–14	12–13
Pectoral-fin rays	18	18	16	15	7–9	11	14–15
Caudal-fin segmented rays	10 + 9	9 + 8	—	—	—	—	—
Vertebrae	—	—	—	—	21–22 + 22 (<i>n</i> = 3)	—	—
Measurements (% of SL)							
Body depth at anus	9.8–10.7	11.3	7.8–8.1	9.0–9.2	4.7–5.0	6.8–7.2	7.1–7.2
Posterior ends of dorsal-fin base and caudal-peduncle distance	16.0–17.2	—	—	—	—	—	—
P ₂ A	—	—	—	30.8–32.0	—	—	—
AAA	2.1–2.3	2.6	5.9–6.7	8.8–8.9	6.2–6.3	5.7–5.8	8.0–8.1
Pre-second dorsal-fin length	—	—	—	65.1–67.2	—	—	—
Pre-second dorsal-fin length + P2A	—	—	—	96.3–99.2	—	—	—
Second dorsal-fin base length	18.8–19.0	—	—	—	—	—	—

*Total number of rays includes both spinous and segmented rays

の距離、背鰭基底長はイソミズハゼの全個体を用いて計測した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。ミミズハゼ属の種の掲載順は渋川ほか（2019）の定義した種群順にしたがった。

セジロハゼ属 *Clariger* Jordan and Snyder, 1901

Clariger cosmurus Jordan and Snyder, 1901

セジロハゼ (Fig. 1A)

標本 3 個体（体長 14.4–25.0 mm）：KAUM-I. 186158, 体長 25.0 mm, 2023 年 6 月 18 日, 徒手, 小野波龍, KAUM-I. 221287, 体長 14.4 mm, 2021 年 9 月 9 日, 徒手, 小野波龍・千葉舜也・堀部優華, KAUM-I. 221288, 体長 16.8 mm, 2021 年 10 月 9 日, 徒手, 小野波龍・金井聖弥・北田将大・平井美咲, 北海道松前郡松前町弁天。

分布 日本と韓国に分布し（明仁ほか, 2013）, 国内では青森県から日向灘にかけての太平洋沿岸, 青森県から鹿児島県にかけての日本海・東シナ海沿岸, および瀬戸内海から記録されていた（明仁ほか, 2013; Iwatsuki et al., 2017）。本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる。

採集地の環境 本標本は波当たりの強い岩礁性海岸の潮間帯下部に堆積した砂利の間隙から採集された。

同定 北海道産標本は背鰭が 2 基, 眼下に暗色のヒゲ状突起をもつ, 頭部側面の暗色帯下縁と明色域の境界が明瞭である, およびヒゲ状突起の下に暗色斑をもつ, 胸鰭上部の遊離軟条数は 2 本であることが明仁ほか（2000, 2013）の示したセジロハゼの形態的特徴に概ね一致し, 本種に同定された。しかし, 本標本は鱗をもたないことで明仁ほか（2000, 2013）のセジロハゼの記載（1 縦列の鱗をもつ）と異なる。塩垣・道津（1972）はセジロハゼに被鱗域にもとづく 4 型を見出し, そのうち鱗をもたない「無鱗型」は明仁ほか（2013）において「青森県三厩から採集されているが, 詳細がわからない」とされている。その後, 渋川ほか（2020）は「福島県南三陸町産」（宮城県南三陸町産の誤りである可能性が高い）の無鱗型個体を有鱗型個体と比較し, 明瞭な差がみられなかったことから両者を種内変異の範疇であると判断した。本報告においては, 渋川ほか（2020）の見解にしたがい, 無鱗型をセジロハゼの種内変異とみなし, 北海道産標本をセジロハゼに同定した。

ミミズハゼ属 *Luciogobius* Gill, 1859

ミミズハゼ種群 *Luciogobius guttatus* complex



Fig. 1. Fresh specimens of *Clariger cosmurus* (A: KAUM-I. 186158, 25.0 mm SL), *Luciogobius martellii* (B: KAUM-I. 163697, 63.3 mm SL), *Luciogobius yubai* (C: KAUM-I. 187589, 47.0 mm SL), *Luciogobius grandis* (D: KAUM-I. 185844, 78.3 mm SL), and *Luciogobius platycephalus* (E: KAUM-I. 185847, 55.2 mm SL) from Hokkaido, Japan.

***Luciogobius martellii* Di Caporiacco, 1948**

イソミミズハゼ (Fig. 1B; Table 1)

標本 2 個体 (体長 63.3–64.8 mm) : KAUM-I. 163697, 体長 63.3 mm, 北海道斜里郡斜里町, 2021 年 5 月 8 日, 徒手, 金井聖弥; KAUM-I. 212572, 体長 64.8 mm, 北海道岩内郡岩内町, 2024 年 9 月 25 日, 徒手, 高野光喜.

分布 ロシア, 韓国, 日本, および中国 (上海) に分布し, 国内からは北海道から屋久島にかけて報告されていた [藍澤・松浦, 1995 (ミミズハゼ属の未記載種として); 明仁ほか, 2013; 渋川ほか, 2019; Kim et al., 2023]. 本種の北海道からの記録は, 日本魚類学会年会の講演要旨 (藍澤・松浦, 1995, 日本とロシアから採集されたミミズハゼ属の 1 未記

載種, 1995 年度日本魚類学会講演要旨, 27) でミミズハゼ属の未記載種として示されているのみであり, 本標本は本種の北海道からの標本に基づく確かな初記録となる.

採集地の環境 本標本はわずかな淡水の流入がある堆積性の礫浜海岸において, 礫間隙から採集された.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 13, 臀鰭総鰭条数が 14, 胸鰭鰭条数が 18 で, 胸鰭上端の 1 鰭条が遊離する, 尾鰭分節軟条数が 10 + 9, AAA 長が肛門における体高の半分未満, および背鰭基部後端から尾柄部後端までの間の水平長は背鰭基部長より短いことが渋川ほか (2019) の示したイソミミズハゼの形態的特徴に一致し, 本種に同定された.



Fig. 2. Habitat and live individuals (unclear whether they were preserved) of *Luciogobius grandis* and *L. platycephalus* in Hokkaido Prefecture, Japan. A: Collection site of KAUM-I. 187596 and KAUM-I. 221285; B: *L. grandis*; C: *L. platycephalus*.

Luciogobius yubai Ikeda, Tamada and Hirashima, 2019
ダイダイソミズハゼ (Fig. 1C; Table 1)

標本 KAUM-I. 187589, 体長 47.0 mm, 北海道松前郡松前町弁天, 2022 年 5 月 7 日, 徒手, 小野波龍.

分布 日本固有種で, 日本海・東シナ海沿岸からは山形県飛島, 新潟県佐渡島, 長崎県福江島, 鹿児島県長島, 太平洋沿岸からは静岡県, 和歌山県, および高知県, 瀬戸内海沿岸からは兵庫県家島諸島, および鹿児島湾沿岸から報告されていた (渋川ほか, 2019; Ikeda et al., 2019; 是枝ほか, 2020; 斉藤・難波, 2022; 是枝・本村, 2024; 赤池ほか, 2025). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる.

採集地の環境 本標本は地下から淡水の染み出しがある堆積性の礫浜海岸において礫間隙から採集された.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 9, 臀鰭総鰭条数が 11, 胸鰭鰭条数が 18, 胸鰭上端の 1 鰭条が遊離し, 微小な棘条突起をもつ, 尾鰭分節軟条数が 9 + 8, 眼下にヒゲ状の突起を複数もつ, 頤にある左右の皮弁が前端で癒合する, AAA 長が肛門における体高の半分未満, および生鮮時の体がオレンジ色を呈し, 明瞭な暗色斑がないことが

渋川ほか (2019) や Ikeda et al. (2019) の示したダイダイソミズハゼ *Luciogobius yubai* の形態的特徴に一致し, 本種に同定された.

オオミズハゼ種群 *Luciogobius grandis* complex

Luciogobius grandis Arai, 1970

オオミズハゼ (Figs. 1D, 2B; Table 1)

標本 8 個体 (体長 61.4–112.3 mm): KAUM-I. 185844, 体長 78.3 mm, 北海道檜山郡上ノ国町木ノ子, 2022 年 11 月 17 日, 徒手, 小野波龍・北田将大・高野光喜; KAUM-I. 187596, 体長 67.0 mm, 北海道松前郡福島町岩部, 2021 年 9 月 11 日, 徒手, 及川 輝・小野波龍・金井聖弥・北田将大; KAUM-I. 187601, 体長 79.1 mm, 北海道檜山郡乙部町, 2021 年 11 月 9 日, 徒手, 小野波龍・北田将大・高野光喜; KAUM-I. 187603, 体長 79.1 mm, 北海道檜山郡上ノ国町原歌, 2021 年 11 月 9 日, 徒手, 小野波龍・北田将大・高野光喜; KAUM-I. 212568, 体長 112.5 mm, KAUM-I. 212569, 体長 89.9 mm, KAUM-I. 212570, 体長 89.3 mm, KAUM-I. 212571, 体長 61.4 mm, 北海道岩内郡岩内町敷島内, 2024 年 9 月 25 日, 徒手, 高野光喜・進藤夢恭・寺

井瑠海・小田原優駿.

分布 日本と韓国に分布し(渋川ほか, 2019; 是枝・本村, 2021b), 国内では陸奥湾, 青森県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, 青森県から鹿児島県薩摩半島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, および鹿児島湾から記録されていた(渋川ほか, 2019; 是枝・本村, 2021a, b; 田代ほか, 2022; 是枝ほか, 2023). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる. なお, 是枝・本村(2021b)は本種の分布に台湾を含めたが, Chen et al. (2024)はこれまで台湾から記録されていた *L. grandis* が全て *Luciogobius huatangensis* Chen et al., 2024 に同定されるとした. 本報告では Chen et al. (2024) の見解にしたがい, オオミミズハゼの分布から台湾を除外した.

採集地の環境 (Fig. 2A, B) 本標本は波当たりの強い堆積性の礫浜海岸の潮間帯中部に堆積した直径 1–3 cm の礫間隙から採集された. 一部の調査地点においては後述のヤリミミズハゼ, ナガミミズハゼと同所的に確認された.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 17, 臀鰭総鰭条数が 16, 胸鰭鰭条数が 16 で, 上部の 2–3 鰭条が遊離する, 腹鰭膜蓋の後縁が前方に湾入した 2 葉状で, 膜蓋直前の皮膚との間には左右方向の溝をもつ, AAA 長が肛門直上の体高の半分以下, および生鮮時の胸鰭基部後方に青白色斑をもたないことが渋川ほか(2019)と是枝・本村(2021b)の示したオオミミズハゼの形態的特徴に一致し, 本種に同定された.

ヤリミミズハゼ種群 *Luciogobius platycephalus* complex

Luciogobius platycephalus Shiogaki and Dotsu, 1976

ヤリミミズハゼ (Figs. 1E, 2C; Table 1)

標本 4 個体(体長 18.7–60.3 mm): KAUM-I. 185847, 体長 55.2 mm, KAUM-I. 185848, 体長 51.7 mm, 北海道松前郡福島町岩部, 2023 年 6 月 18 日, 徒手, 小野波龍; KAUM-I. 221285, 体長 60.3 mm, 北海道松前郡福島町岩部, 2021 年 9 月 11 日, 徒手, 及川 輝・小野波龍・金井聖弥・北田将大; KAUM-I. 221286, 体長 18.7 mm, 北海道檜山郡乙部町, 2021 年 11 月 9 日, 徒手, 小野波龍・北田将大・高野光喜.

分布 日本と韓国に分布し(渋川ほか, 2019), 国内では青森県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, 青森県から鹿児島県薩摩半島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, および種子島から記録されていた(渋川ほか, 2019; 田代ほか, 2022; 是枝ほか, 2023; Koreeda et al., 2023). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる.

採集地の環境 (Fig. 2A, C) オオミミズハゼの項目参照.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 11, 臀鰭総鰭条

数が 13–14, 胸鰭鰭条数が 15 で, 上部の 3 鰭条が遊離し, 分枝鰭条数が 10, AAA 長が肛門直上の体高の半分以上であること, 標準体長に対する背鰭前長と P₂A 長が短く, 両者を足した値が小さいこと, および生鮮時の体色は黄みがかった緑であることが渋川ほか(2019)と Koreeda et al. (2023) の示したヤリミミズハゼの形態的特徴に一致し, 本種に同定された.

ナガミミズハゼ種群 *Luciogobius elongatus* complex

Luciogobius elongatus Regan, 1905

ナガミミズハゼ (Fig. 3A, B; Table 1)

標本 13 個体(体長 21.1–32.3 mm): KAUM-I. 187610, 体長 24.2 mm, KAUM-I. 187611, 体長 29.3 mm, KAUM-I. 187612, 体長 20.4 mm, 北海道小樽市朝里, 2022 年 10 月 13 日, 徒手, 及川 輝・田中克海; KAUM-I. 187632, 体長 26.2 mm, KAUM-I. 187633, 体長 26.5 mm, 北海道積丹郡積丹町, 2021 年 8 月 28 日, 徒手, 小野波龍; KAUM-I. 187645, 体長 35.9 mm, KAUM-I. 187646, 体長 34.3 mm, 北海道積丹郡積丹町, 2021 年 8 月 28 日, 徒手, 小野波龍; KAUM-I. 211407, 体長 38.3 mm, KAUM-I. 211408, 体長 36.9 mm, 北海道函館市元村町, 2024 年 8 月 4 日, 桂田芳紀; KAUM-I. 211409, 体長 30.1 mm, KAUM-I. 211410, 体長 28.7 mm, KAUM-I. 211411, 体長 28.5 mm, KAUM-I. 211412, 体長 26.4 mm, 北海道礼文町礼文島, 2024 年 7 月 4 日, 吉川 諒.

分布 ロシア(ピーター大帝湾), 日本, および韓国に分布し(Snyder, 1912; Sheiko, 1984; 渋川ほか, 2019), 国内では青森県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, 京都府から鹿児島県薩摩半島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 種子島, および屋久島から記録されていた(渋川ほか, 2019; 是枝・本村, 2021b; 田代ほか, 2022; 是枝ほか, 2023; Motomura, 2023). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる. なお, Vasil'eva et al. (2025) は Pinchuk (1978) の見解にしたがい, Lindberg and Krasnyukova (1975) が報告した間宮海峡(タタール海峡)からの本種の記録を疑問視し, それ以降のロシアからの記録はないとした. 本報告でも Pinchuk (1978) の見解にしたがい, タタール海峡からの本種の記録は誤同定に基づく判断し分布に含めなかった. 一方, Sheiko (1984) のピーター大帝湾からの記録は以降の文献で誤同定に関する言及はないため, 有効な記録とし本種の分布にロシアを含めた.

採集地の環境 (Fig. 4) 本標本は波当たりの強い堆積性の礫浜海岸の潮間帯下部に堆積した砂利の間隙から採集された. 小樽市朝里の採集地においては淡水の弱い流入があり, 同所の礫間隙からはニホンザリガニ *Cambaroides japonicus* De Haan, 1841 も観察された.



Fig. 3. Fresh specimens of *Luciogobius elongatus* (A: KAUM-I. 211407, 38.3 mm SL; B: KAUM-I. 211409, 30.1 mm SL), *Luciogobius parvulus* (C: KAUM-I. 186150, 38.3 mm SL), and *Luciogobius* sp. 13 sensu Shibukawa et al. (2019) (D: KAUM-I. 191970, 33.8 mm SL) from Hokkaido, Japan.



Fig. 4. Collection site of *Luciogobius elongatus* (KAUM-I. 187610, KAUM-I. 187611, and KAUM-I. 187612) in Otaru, Hokkaido, Japan.

同定 北海道産標本は臀鰭総鰭条数が8–10、胸鰭鰭条数が7–9で、遊離鰭条をもたない、腹鰭が明瞭な膜蓋をもたず、皮弁状、AAA長が肛門直上の体高の半分以上、および尾鰭に尾鰭全体の2/3程度を覆う黒斑をもち、外縁が半透明帯で細く縁取られることが渋川ほか（2019）の示したナガミミズハゼの形態的特徴に一致し、本種に同定された。しかし、北海道産標本のうち脊椎骨数を観察した3個体（KAUM-I. 187610, KAUM-I. 187611, KAUM-I. 187612）は腹椎骨数が21–22であり、渋川ほか（2019）で示された値（19–21）よりやや多い傾向がみられた。魚類においては初期発生時の低水温が脊椎骨数などの計数形質を増加させることが報告されている（Jordan, 1891）。北海道産標本は本種のこれまでの分布北限を更新するものであり、既知の生息環境と比較し寒冷な海域であることから、本標本にみられた本種の既知の形態的特徴との差異は生息環境の水温による影響を反映したものである可能性がある。

***Luciogobius parvulus* (Snyder, 1909)**

ナンセンハゼ (Figs. 3C, 5B; Table 1)

標本 4個体（体長21.1–41.8 mm）：KAUM-I. 186150, 体長40.0 mm, 北海道松前郡福島町岩部, 2023年6月18日, 徒手, 小野波龍；KAUM-I. 187590, 体長41.8 mm,



Fig. 5. Habitat and live individuals (unclear whether they were preserved) of *Luciogobius parvulus* and *Luciogobius* sp.13 sensu Shibukawa et al. (2019) in Hokkaido, Japan. A: Collection site of *L. parvulus* and *L. sp. 13*; B: *L. parvulus*; C: *L. sp. 13*.

KAUM-I. 187591, 体長 21.1 mm, 北海道松前郡松前町弁天, 2021 年 10 月 9 日, 手網, 小野波龍・金井聖弥; KAUM-I. 191972, 体長 40.0 mm, 北海道松前郡松前町弁天, 2024 年 5 月 14 日, 手網, 小野波龍.

分布 日本と韓国に分布し (渋川ほか, 2019; Kim et al., 2021), 国内では青森県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, 青森県から鹿児島県薩摩半島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, および奄美大島から記録されていた (明仁ほか, 2013; 渋川ほか, 2019; 山崎ほか, 2021; 田代ほか, 2022). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる.

採集地の環境 (Fig. 5A, B) 本標本は波当たりの強い岩礁性海岸の潮間帯下部から潮下帯に堆積した砂利の間隙から, 後述のホソミミズハゼとともに採集された.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 10–11, 胸鰭鰭条数が 11, 腹鰭をもたない, および生鮮時体が暗い黄みのブラウンであることが渋川ほか (2019) の示したナンセンハゼの形態的特徴に一致し, 本種に同定された. しかし, 本標本は臀鰭総鰭条数が 13–14 であり, 渋川ほか (2019) が示したナンセンハゼの値 (11–13) よりやや多い傾向がみられた. 北海道産標本はナガミミズハゼと同様に本種のこれまでの分布北限を更新するものであり, 既知の分布と比較して寒冷な海域であることから, 本標本にみられた本種の既知の形態的特徴との差異は生息環境の水温による影響

によるものである可能性がある.

***Luciogobius* sp. 13 sensu Shibukawa et al. (2019)**

ホソミミズハゼ (Figs. 3D, 5C; Table 1)

標本 5 個体 (体長 18.5–36.7 mm): KAUM-I. 187593, 体長 29.4 mm, 2021 年 9 月 9 日, 手網, 小野波龍・千葉舜也・堀部優華, KAUM-I. 187595, 体長 27.4 mm, 2022 年 5 月 22 日, 手網, 金井聖弥・鈴木翔己・田中克海・本吉稜・森谷武史, KAUM-I. 191969, 体長 36.7 mm, KAUM-I. 191970, 体長 33.8 mm, KAUM-I. 191971, 体長 30.6 mm, 2023 年 10 月 28 日, 手網, 小野波龍, 北海道松前郡松前町弁天.

分布 日本固有種で, 相模湾から鹿児島県大隅半島にかけての太平洋沿岸, 青森県から鹿児島県下甕島にかけての日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, および鹿児島湾から記録されていた (渋川ほか, 2019; 是枝・本村, 2021a; 斎藤・末松, 2022, 本田ほか, 2024). 本標本は本種の北海道からの初記録ならびに分布の北限記録となる.

採集地の環境 (Fig. 5A, C) 本標本は波当たりの強い岩礁性海岸の潮間帯下部から潮下帯に堆積した砂利の間隙から, ナンセンハゼとともに採集された. 潮下帯ではナンセンハゼより多く確認され, 堆積した砂利ごと手網に蹴り込むことで採集された.

同定 北海道産標本は背鰭総鰭条数が 10–11、臀鰭総鰭条数が 12–13、胸鰭鰭条数が 14–15 で、最上部の 1 鰭条が遊離する、および腹鰭が明瞭な膜蓋をもつ吸盤状であることが渋川ほか（2019）の示したホソミズハゼの形態的特徴に概ね一致し、本種に同定された。

備考 本標本は採集地の環境の項に示した通り、同所的に得られるナンセンハゼより潮下帯での個体数が多く確認された。渋川ほか（2019）はホソミズハゼの採集地の環境を潮間帯とし、是枝・本村（2021a）は潮間帯中部から下部としている。また、渋川ほか（2020）は潮下帯やタイドプールで多いのはむしろナンセンハゼとしている。北海道産標本が得られた環境は渋川（2019）や是枝・本村（2021a）の採集地の環境と比較し干満差が小さい、気温が低いなどの差異があり、これらの環境要因が本種の生態に影響している可能性が考えられる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鈴木翔己氏、本吉稜氏、森谷武史氏、千葉舜也氏、堀部優華氏、桂田芳紀氏、吉川 諒氏、浅妻祐軌氏、平井美咲氏、進藤夢恭氏、寺井瑠海氏、小田原優駿氏には標本の収集にご協力いただいた。魚類分類学研究室の学生やボランティアのみなさまには標本の作製および登録作業にご協力頂いた。また、同研究室の是枝伶旺氏、匿名の査読者、Ichthy 編集委員の中村潤平氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費（20H03311・21H03651・23K20304・24K02087）、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型（CREPSUMJPJSCCB20200009）、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

引用文献

- 赤池貴大・是枝伶旺・本村浩之. 2025. 山形県飛島から得られた同島初記録のミズハゼとダイダイソミズハゼ、および後者の北限更新記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 57: 34–37.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久. 2000. ハゼ亜目, pp. 1139–1310, 1606–1628. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- Chen, I.-S., Y.-S. Ren, G.-C. Jiang, S.-C. Wang and C.-W. Chang. 2024. Three new species of *Luciogobius* Gill (Teleostei: Gobiidae) from Taiwan. Zootaxa, 5550: 200–212.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録（改訂）. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 53: 127–218.

- Ikeda, Y., K. Tamada and K. Hirashima. 2019. *Luciogobius yubai*, a new species of gobioid fish (Teleostei: Gobiidae) from Japan. Zootaxa, 4657: 565–572.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- Jordan, D. S. 1891. Relations of temperature to vertebrae among fishes. Proceedings of the United States National Museum, 14: 107–120.
- Kim, M.-S., S.-H. Choi and Y. Choi. 2023. A re-examination of gobiid fish, *Luciogobius guttatus*, with first record of *L. martellii* in Korea. Korean Journal of Ichthyology, 35: 378–383.
- Kim, M.-S., H.-K. Ra, S.-H. Choi, J.-G. Kim and Y. Choi. 2021. First record of gobiid fish, *Luciogobius parvulus* (Perciformes: Gobiidae) from Wando Island, Korea. Korean Journal of Ichthyology, 33: 191–195.
- Koreeda, R., K. Maeda and H. Motomura. 2023. A new subtropical species of goby of the genus *Luciogobius* (Gobiidae) from southwestern Japan. Zootaxa, 5361: 390–408.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021a. 鹿児島県から得られた分布の南限記録となるホソミズハゼ、および本種の生息環境に関する知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 25–32.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2021b. 下甕島から得られた温帯・亜熱帯性ミズハゼ属魚類 7 種の記録、およびミズハゼ属において初めて確認された交雑の可能性. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 27–52.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2024. 天草諸島長島から得られたダイダイソミズハゼ. Nature of Kagoshima, 51: 29–31.
- 是枝伶旺・緒方悠輝也・本村浩之. 2023. 宮崎県初記録のミズハゼ属 6 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 31: 6–13.
- 是枝伶旺・清水直人・本村浩之. 2020. 鹿児島湾から得られた南限記録となるダイダイソミズハゼの記載と本種の生態学的新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 51–55.
- 小谷健二・今村 央. 2009. 北海道渡島半島沿岸から記録された 2 種の魚類、メゴチとヒゲセジロハゼ. 北海道大学水産科学研究彙報, 59: 43–46.
- Lindberg, G. U. and Z. V. Krasnyukova. 1975. Ryby Yaponskogo morya i sopredel'nykh chastei Okhotskogo i Zheltogo morei (Fishes of the Sea of Japan and adjacent parts of the Okhotsk and Yellow seas), part 4. Nauka Press, Moscow. 463 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250.
- Pinchuk, V. I. 1978. Notes and supplements to the family Gobiidae in the book by Lindberg and Krasnyukova “Fishes of the Sea of Japan and neighboring parts of the Sea of Okhotsk and Yellow Sea,” Part 4, 1975 with a description of a new species *Chaenogobius taranetzi*. Journal of Ichthyology, 18: 1–14.
- 斉藤洪成・難波拓登. 2022. 高知県大月町から得られた四国初記録のダイダイソミズハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 21: 27–30.
- 斉藤洪成・末松知宙. 2022. 長崎県初記録のオチヨコナガミズハゼおよびホソミズハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 20: 26–32.
- Sheiko, B. A. 1984. Study of ichthyofauna of Peter the Great Bay. Soviet Journal of Marine Biology, 9: 186–191.
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之. 2020. *Inu Snyder, 1909 とは何か？*—コマハゼ属の再定義及び関係する間隙潜行性ハゼ類の放散に関する考察. 東海自然誌, 13: 79–116.
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）. 東海自然誌, 12: 29–96.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1972. セジロハゼの生活史. 長崎大学水産学部研究報告, 34: 19–27.

- Snyder, J. O. 1912. Japanese shore fishes collected by the United States Bureau of Fisheries steamer “*Albatross*” expedition of 1906. Proceedings of the United States National Museum, 42 (1909): 399–450, pls. 51–61.
- 田代郷国・是枝伶旺・藤原恭司. 2022. ハゼ科, pp. 237–264. 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之（編）薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Vasil’eva, E. D., A. M. Orlov, V. I. Romanov, R. Fricke and Yu. V. Dyldin. 2025. Ichthyofauna of the fresh and brackish waters of Russia and adjacent areas: Annotated list with taxonomic comments. 4. Orders Gobiiformes, Anabantiformes, Pleuronectiformes and Carangiformes. Journal of Ichthyology, doi: 10.1134/S0032945225600934.
- 山崎裕太・緒方悠輝也・村瀬敦宣. 2021. 宮崎県延岡市から得られた標本に基づく東九州初記録のナンセンハゼ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 5: 16–19.